

ジムで学習指導やりハビリ



NPO法人フリースクール・グロービー

(広島市安芸区)

丸亀 恭敬理事長

広島市安芸区と広島県海田町の境界近くの国道31号沿いにあるボクシングジム。安芸地区の幼児から中高年までが通い、ひきこもりや問題行動のある生徒の学習支援も行う。4月から近くの介護事業者と共同し高齢者のリハビリデイサービスを始め、子どもたちも手伝う。丸亀恭敬理事長(49)は「心身とも強い子が育てば地域は明るくなる」と意気込む。

(田中伸武)

発信 わがまち

人間性回復の拠点づくり

「なぜジムでフリースクールを。」

設立当初はトップ選手の育成が目標だった。世界チャンピオンになった坂田健史(府中町出身)も通っていた。ところがやがて、中学校の先生が手に負えない子を連れて来たり、不登校の子を親が誘って来たりするようにになった。原因はいじめ、というケースが多い。地域の問題としてとらえ、子らを支援するスクールの形になった。

「厳しい指導のイメージがあります。」

それは偏見では。ボクシングは体罰の不要なスポーツ。練習が殴り合いそのものなのだから。子らは体をぶつけあうことで心の強さを身につける。ほめるのが鍵。学校に行けない子も

まるがめ・やすのり1963年、広島市生まれ。山陽高(広島)でボクシングを始め、東洋大で国体出場。91年、自宅のある府中町でボクシング教室を開き、2004年にNPO法人設立。昨年、安芸区にジムを移転した。県アマチュアボクシング連盟常任理事も務める。土木設計コンサルタント会社を経営。

ジムには通い続けてくれる。そこでコーチの元教師らが学習指導し、通信制高校などの授業をサポートする。

「高齢者とのふれあいも指導の一環ですか。」

大きな効果があると信じている。リハビリを手助けすることで世代間の会話が弾めば、お年寄りは喜んでくれる。心に傷を負った子どもは他人の役に立つことで前向きな姿勢を取り戻す。地域のコミュニケーションにいい循環が生まれる。

「スクールの目標は。」

核家族化が進むだけに、老若男女さまざまな世代が気軽に交流できる場にした。ジムは学校帰りに立ち寄り生徒や健康維持に通う主婦が声を掛け合うアットホームな雰囲気だ。バザーや演芸大会など住民と直接交流するイベントも企画する。地域に根ざした人間性回復の拠点になりたい。